



同窓生としての絆を深める 卒業五X周年同窓会の一層の進展を

会長 松澤 勇 治

卒業五X周年同窓会

六学年で開催

令和五年五月八日より、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ五類に移行したこともあり、昨年度は一つの学年でしたが、本年度は六つの学年で同窓会が開催されました。

開催にあたり、学年理事を中心とする実行委員の皆様には、当日に向けてのきめ細かなご準備、お互いの親睦を深め思い出に残るひとときとなるような趣向を凝らしたプログラムの作成や心温まる運営、そして、次回開催を見据えた事後処理に至るまで、大変なお骨折りをいただきましたことに深く感謝申し上げます(報告の詳細は、十七頁から二十二頁を参照)。

私共本会役員も出席させていただき、祝意とともに、大学の現状や教友会の活動状況等について述べさせていただきましたが、卒業二十・二十五・三十五・退職時期・五十・五十五周年と、卒業後の年数は異なりますが、同じ時代を、

同じ大学で共に学び合った仲間としての絆の深さを改めて感じさせていただきました。

ところで、「絆」という文字には、「人と人との断つことのできないつながり。離れがたい結びつき」の意味があり、「家族の絆」、「チームの絆」などと使われます。互いに関わり合う中で愛着が生まれ信頼が深くなり、それが絆となると言えます。

以前、ある方から、「絆とは、糸が半分。人間はどんなに頑張っても、半人前にしかなれない。だから、残り半分は絆の力に頼らざるを得ない」と聞き、なるほど感じ入りました。

「教友会」には、同窓生としての強い絆があります。大学時代は、まだまだ未知数や可能性を秘め、学問と向き合い、交友関係を広げ、人生に幅と深みを持たせる大事な時期であったと言えます。同じ時代を同じ大学で共に過ごした者同士としての絆の力を信じ、育み、これからの大事にしながら進んでいきたいものです。

会報「教友」の紙面の充実と

今後の発行に向けて

本会では、会員の皆様への活動内容等をお知らせするとともに、会員相互の交流の一助になることを願って会報誌を発行してありますが、前号からこれまでの卒業生向け「教友」と在学生向け「学友」を合本し、誌面の一部も刷新いたしました。

卒業生・在学生のそれぞれに有益な内容を掲載するとともに、特に、「今の大学の様子を知りたい」という卒業生からの声にこたえるべく、前号から「キャンパスライフ」として、サークル紹介(体育系・文化系)を掲載することにしました。また、日々学生たちは、様々な講義の受講とともに、どのような研究活動に取り組んでいるのかということについて、今号から「ゼミ紹介」を、各研究室の先生方のご協力をいただきながら掲載することにいたしました。今後も、紙面の一層の充実に努めてまいります。

ところで、各大学の同窓会では、会報をホームページに公開し、誰もがアクセスできるようになってきており、埼玉大学においても、教育学部同窓会、経済学部同窓会でホームページに、理学部・工学部においても、各学科ごとに公開しております。

そこで、教友会としても、現在は会報の一部を公開しておりますが、全面公開に向けての検討を重ね、その結果を、本年度の本部常任委員会や総会でご提案申し上げます。ご承認をいただきました。

詳細については、本誌と一緒に同封しました「会報『教友第九十四号』」の送付及び今後の送付希望についてをお読みいただきたいと思いますが、主な内容は、次のとおりです。

○紙ベースでの会報の発行は、今後五年間(令和六年度から令和十年度)とし、その後は、ホームページのみとする。

○今後五年間、紙ベースの会報の送付を希望する場合は、同封したはがきで回答する(送付を希望しない場合は返信不要)。

今後時代時代の進展を見据え、業務改善の視点(業務内容の整理・統合・精選、事業費の削減等)を踏まえながら各種事業の推進を図ってまいりますので、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

(昭和五十年卒)